

「東京近郊日帰り旅行 (7)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

青梅線の奥多摩駅からは、各方面にバスが出ています。「西東京バス」という会社の運行です。



どこのバス会社も、何年かに一回、塗装やデザインを変更していますが、西東京バスのデザインは、50年前と全くと言って良いほど変わっていません。私が子どもの頃に小学校への通学で乗っていた、当時の「京王バス」の塗装そのままなのです。西東京バスは京王バスの子会社だからでしょう。この塗装のバスを見ると、とてもなつかしい気持ちになります。



かつては奥多摩駅前に、西東京バスの営業所（サービスステーション）がありました。バスの乗車券や定期券を発売するほか、食堂や売店も併設していて、奥多摩登山の時に何度も利用した記憶があります。

ここでお蕎麦を食べる計画だったのですが、残念ながら完全に撤去されていて、営業所は車庫の左側に小さなプレハブに移動していました。相当に古い建物だったので、老朽化で取り壊されたのでしょう。



奥多摩駅のすぐ上には、工場のようなものがあります。これは「奥多摩工業氷川工場」といって、石灰岩運搬の基地になっています。しかし、実際にはこの場所で石灰岩を採掘しているわけではありません。日原川（にっばらがわ）の上流地区で採掘された鉍石を、非常に珍しい「曳索鉄道」という専用線（ほとんどはトンネル）で、ここまで運搬しているのです。



私は石灰岩の標本が欲しいと思い、駅の周辺を探しました。工場の入口付近の歩道（公道）に2, 3個落ちていたので、拾ってきました。鉍石には素人ですが、非常に質の高い石灰岩に見えました。



帰りは「青梅に下る上り電車」に乗りました。先頭車には青梅線の青梅～奥多摩区間の愛称である「東京アドベンチャーライン」というヘッドマークがついています。さきほどの「ドア開閉少年」も乗っていて、帰りも大ハッスルでドア閉めに励んでいました。



青梅駅で再度東京行の快速電車に乗り換えました。もちろん「無料グリーン車」に鎮座しました。青梅では数人しか乗っていませんでしたが、次々と席が埋まり、立川から先は満員、通路に立つ人も見えました。3月15日からのグリーン車では、通路やデッキに立っていてもグリーン料金が必要になります。



これは四ツ谷手前のトンネルです。グリーン車から見ると、何となく新鮮な印象です。



東京駅には定刻に着きました。グリーン車は大人気で、折り返し電車のグリーン車はあっという間に満員になっていました。



初電から乗り通して、大月、奥多摩まで往復して、東京駅まで戻ってきたのですから、普通の人ならここで旅行終了でしょう。しかし私は、休みもせず東京駅前を歩いて、京葉線の地下ホームまで行きました。



外房線特急に乗車することにしたのです。私の買ったフリーきっぷでは、外房線の「茂原駅(もばらえき)」まで行けるからです。全く懲りない旅行者です。



房総特急に乗るのは久しぶりです。房総まで暴走してしまうことになりました。駅弁も購入しました！